厚生文教常任委員会 視察研修報告

視察日
平成27年11月5日～6日

視察先
・福島県会津若松市役所

視察目的
・地域住民の健康増進と医療費の抑制を目的とした※「フィールド・イノベーション」の取り組み調査に関する研修

視察内容
現在、美浦村の高齢化率は、25・2％で、4人に1人の高齢者を現役世代が支える環境となっており、これからますます進行していくことの歯止めと医療費の削減につながる対策は急務と考えます。

そこで、スマートシティ（コミュニティー）事業の中で、「フィールド・イノベーション」活用事業により、保健指導率が大幅改善し、年間医療費を前年比約3，500万円削減した会津若松市を視察しました。

会津若松市は人口約13万人で、福島県下最大の城下町として発展してきた歴史と伝統のある街で、会津地方の経済、社会、文化の中心都市としての役割を果たしてきました。しかし、近年は人口が年間1，000人減、高齢化率は約27％と少子高齢化が進んでいます。

市民の死亡要因を生活習慣病が約6割を占め、医療費・介護・障がい者・生活保護者全てに生活習慣病が深く係わっているという現状を把握しました。そこでまず、保健師の指導率向上に向けた保健業務の効率化を図り、徹底した家庭訪問や健診受診の啓発活動を行いました。結果、健診受診率が向上し、疾病の早期発見や生活習慣病の指導・改善ができ、医療費削減につながったとのことでした。

本村においても、保健師がフル稼働で村民の健康管理をしていますが、本来の保健指導以外の事務作業が多く、専門性が最大限に活用できていないように見受けられます。生涯健康で活力を持って長生きできることが村民の皆さまの願いではないでしょうか。乳幼児から高齢者まで幅広く対応する保健師の人数確保と業務の効率化で、保健指導に専念できる体制と、「心に響く指導」できるスキルアップ体制の強化の必要性を今回の視察を通して痛感いたしました。

最後に、会津若松市発行の「歩いてあいづウォーキングマップ」をいただいてきました。ウォーキングを楽しむ団体・個人が推薦するコースや地元の再発見できる見所（写真入り）など、個人の体力や目的に合わせて無理のないウォーキングを楽しめる冊子で、とても見やすく編集されていて実際に歩いてみたくなりました。日々車移動のみの生活ですが少しの余裕を持って、歩く習慣を身につけていくことが健康づくりの第一歩であると改めて心に刻むことができました。

会津若松市役所にて

※フィールド・イノベーションとは
業務の可視化による業務改善のこと。